

## 米国 4月の非農業部門雇用者数は前月差+20万人が見込まれる (4月15日までの週の新規失業保険申請件数)

06年4月20日(木)

～足下での新規失業保険申請件数の増加基調は31万件と雇用の堅調持続を示唆～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

### 30.3万件と市場 予想を下回った

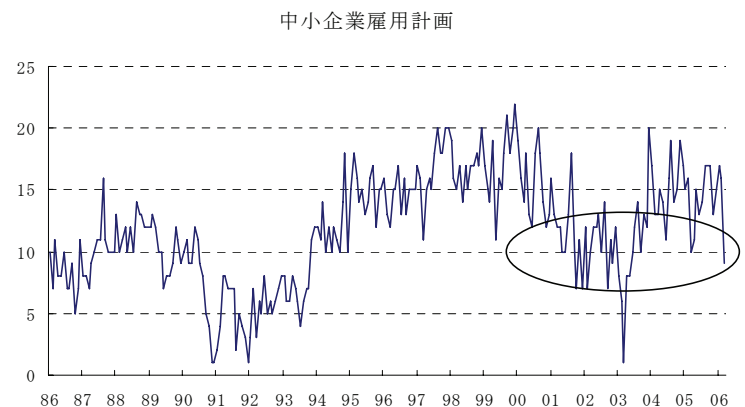
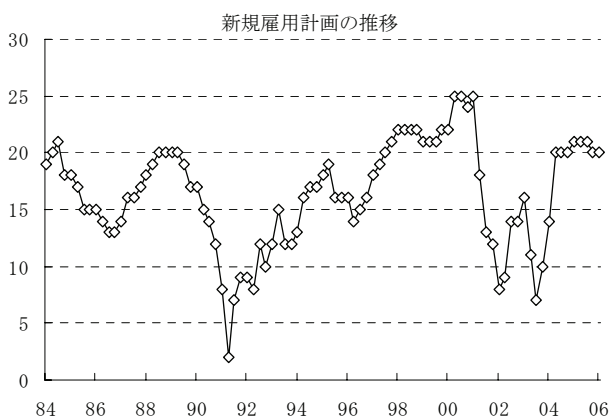
06年4月15日に終わった1週間の新規失業保険申請件数(季節調整済み)は、30.3万件と市場予想の30.8万件を下回り前週の31.3万件から1.0万件減少した。また、トレンドを示す4週間移動平均は、30.5万件と前週の30.7万件から低下した。景気の堅調が持続するなか、安定的な雇用の拡大が続いていることが示された。

4月の雇用統計調査週である4月15日に終わった1週間の新規失業保険申請件数(季節調整済み)が3月の雇用統計調査週と同程度だったこと等から、4月の非農業部門雇用者数は前月差+200千人程度が予想され、雇用の堅調が確認されよう。

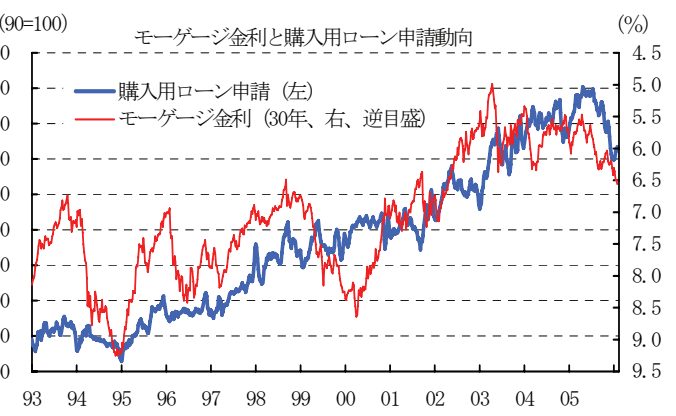
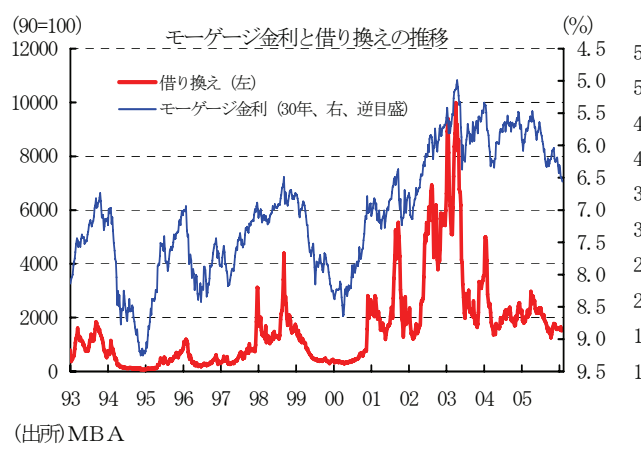
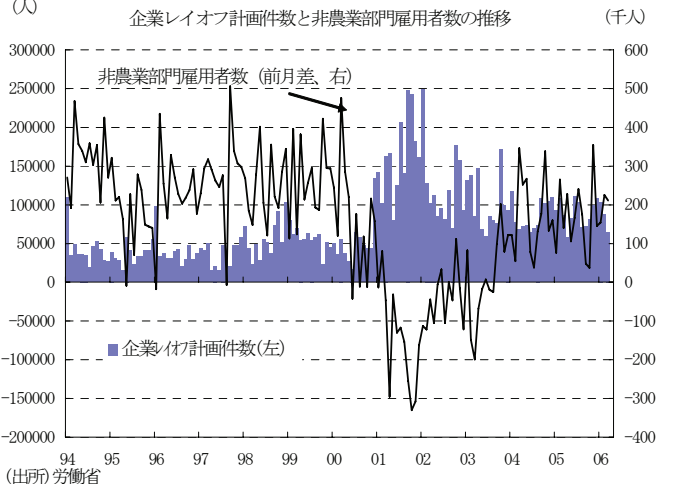
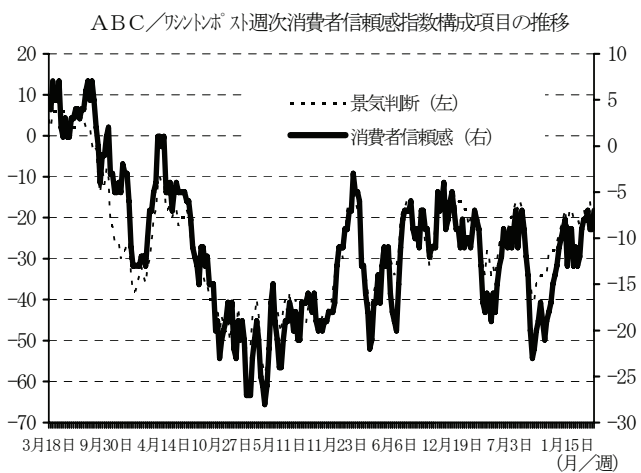
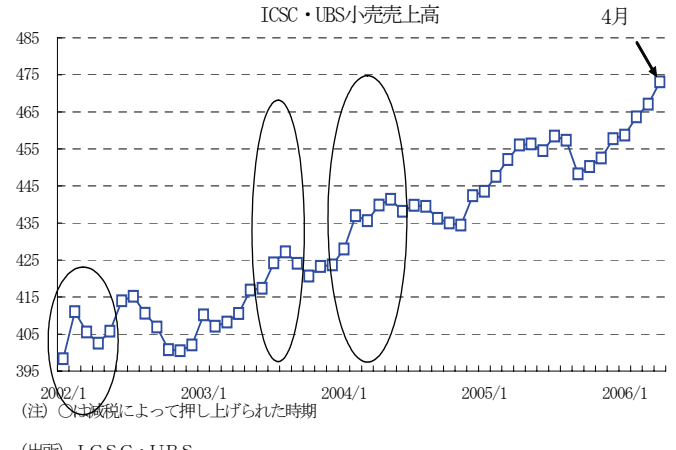
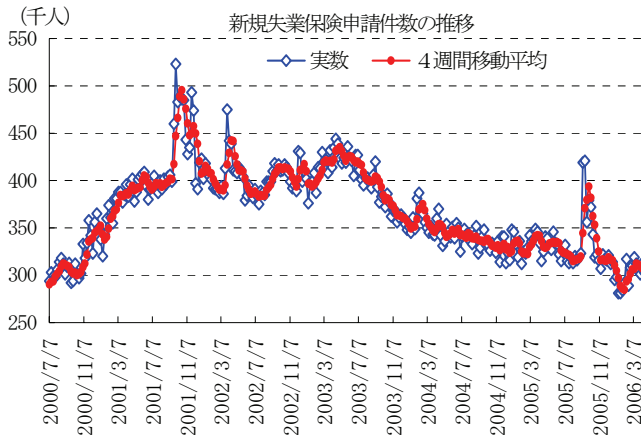
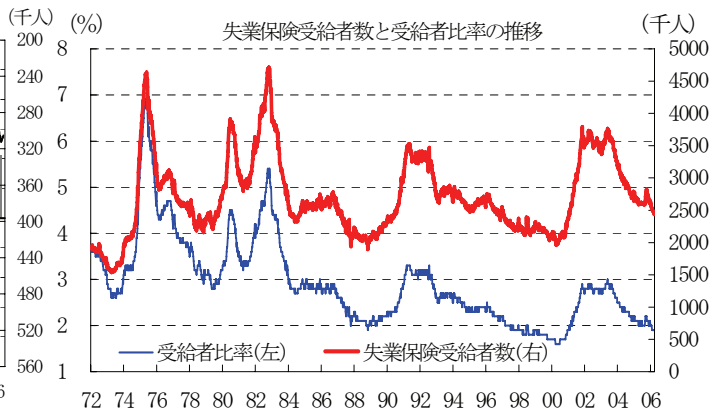
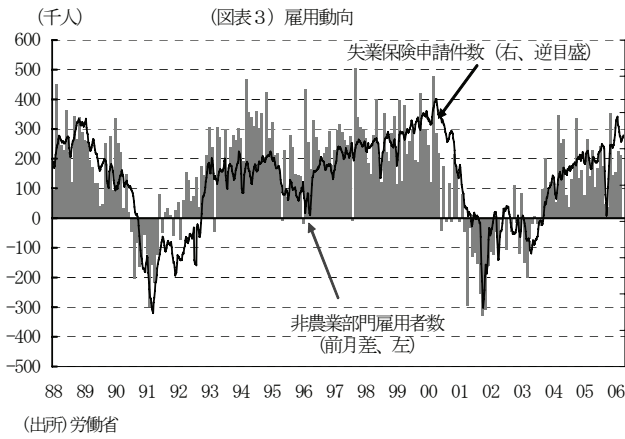
4月8日に終わった週の失業保険受給者数は243.9万人と前週から増加したものの、01年2月以来の水準で推移している。また、4月8日に終わった週の失業保険受給者比率が1.9%と3月と変わっていないことから、4月の失業率も4.7%前後となる可能性が高い。

### 雇用は現在の拡大 トレンドを維持

雇用を取巻く環境をみると、国際競争の激化や投入コストの上昇が続く中、一部の企業はコスト削減のため、レイオフ、採用抑制を続けると予想される。その一方で、雇用に先行する景気が2003年4～6月期から2006年1～3月期まで平均して潜在成長率を上回るペースで拡大しているとみられるなかで、2006年1～3月期の新規雇用計画調査や経営者団体の景況調査における雇用計画などで採用拡大が示唆されていることから、多くの大企業で採用意欲が強まっていると判断される。これらのことから、雇用者数は2006年前半も前期比+0.3%～+0.5%のトレンドを維持すると予想される。ただし、雇用の大部分を占める中小企業の景況感が3月に悪化し、雇用計画は急低下していることから、年後半に拡大ペースは前期比+0.3%程度に鈍化する可能性が高い。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。